



取扱説明書

TT-R50

TT-R50E

1P6-F8199-J2

ヤマハ TT-R50E をご購入いただきありがとうございます。

この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：

- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けずに、車を操作しないでください。
- ライダーの体重は 40 kg を超えないようにしてください。

保護者の方へ重要なお知らせ：

この車は玩具ではありません。お子さんを車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子さんによく理解させ、またお子さんを補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が 1 人 1 人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子さんの車の使いかたを監督してください。お子さんが安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。

この車は調整式のスピードリミッターを装備して出荷されています。ヤマハは全ての初心者が上達するまでは、スピードリミッターによる速度制限を行うことを推奨しています。スピードリミッターは、初心者がだんだん慣れてきたら、スクリューをゆるめることで徐々に最高速度が上がるよう調整できます。保護者の方は、お子さんのライディング能力の向上に応じて車のパワーを調整する時期を決めてください。

モーターサイクルは 2 輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。

守ってください：

- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU41090

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要 点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10030

警 告

車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14350

警 告

この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品と仕様は、予告なしに変更されることがあります。

安全運転のために	1-1
安全運転	1-1
重要項目ラベルの貼り付け位置	1-3

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
メインスイッチ	3-1
ハンドルスイッチ	3-1
スピードリミッター	3-2
シフトペダル	3-3
ブレーキレバー	3-3
ブレーキペダル	3-3
フューエルタンクキャップ	3-4
燃料	3-4
フューエルタンクブリーザー	3-5
ホース	3-5
フューエルコック	3-5
チョークレバー	3-6
シート	3-6
サイドスタンド	3-7
スターティングサーキット	3-7
カットオフシステム	3-7

日常点検	4-1
走行前点検リスト	4-2

運転操作	5-1
エンジン始動（エンジンが 冷えているとき）	5-1
エンジン始動（エンジンが 暖まっているとき）	5-2
ギヤチェンジのしかた	5-2
ならし運転	5-3
駐車	5-3

点検整備	6-1
定期点検整備	6-1
定期点検項目（排ガス関連）	6-2
定期点検整備項目（一般）と給油	6-3
スパークプラグの点検	6-5
エンジンオイル	6-6
エアクリーナーエレメントの清掃	6-7
スパークアレスターの清掃	6-9
キャブレターの調整	6-10
エンジンアイドル回転数の 調整	6-10
スロットルケーブルの遊びの調整	6-11
バルブクリアランス	6-11
タイヤ	6-12
スポークホイール	6-13
アクセサリと交換部品	6-13
クラッチの遊びの調整	6-13
ブレーキレバーの遊びの調整	6-14
ブレーキペダルの遊びの調整	6-15
前輪および後輪ブレーキシューの 点検	6-15
ドライブチェーン	6-16
ドライブチェーンの給油	6-17

ケーブルの点検と注油	6-18
スロットルグリップおよび ケーブルの点検と注油	6-18
ブレーキペダルおよび シフトペダルの点検と注油	6-18
ブレーキレバーの点検と注油	6-19
サイドスタンドの点検と注油	6-19
スイングアームピボットの注油	6-19
フロントフォークの点検	6-20
ステアリングの点検	6-20
ホイールベアリングの点検	6-21
バッテリー	6-21
ヒューズの交換	6-22
車体の支持	6-23
フロントホイール	6-23
リヤホイール	6-25
こんなときは	6-26
トラブルシューティングチャート	6-27

お車の手入れと保管	7-1
保管のしかた	7-2
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
ID 番号	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-2
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-3

安全運転のために

JAU39313

安全運転

- 走行前には必ず点検を行ってください。念入りの点検は事故防止に役立ちます。
- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
 - ・ ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
 - ・ ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。

- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬物を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

- バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり、軽減させるためには、ヘルメットの着用が非常に重要です。
- ヘルメットは S または S G、J I S マークのある二輪車用を必ず着用してください。
 - フェースシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
 - すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、スポン、グローブなどを着用してください。
 - だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにかかり、傷害や事故につながるおそれがあります。
 - 運転中、あるいは運転後、エンジンやマフラー、エキゾーストパイプにさわらないでください。高温のため、ヤケドをするおそれがあります。必ず身体を保護する服を着用し、足や足首を覆ってください。

改造

ヤマハが認可しない改造、部品の取り外しは、車両の操縦安定性を不安定なものにし、重大な人的傷害を引き起こすおそれがあります。

荷物の積載とアクセサリ

アクセサリーの装着によって、車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリーを装着するときは、充分に注意してください。また、アクセサリーを取り付けた車両を運転するときは、充分に注意してください。以下は車両にアクセサリーを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

積載

- 体重が 40 kg を超えるライダーは乗車しないでください。
- アクセサリーの重量はできるだけ、車両より軽いものにしてください。なるべく車両の左右均等に重量を配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリーは、運転前に車両に確実に取り付けるようにしてください。アクセサリーの取り付け状態をこまめに点検してください。
- ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリーや重量のあるアクセサリーを取り付けしないでください。

アクセサリ

ヤマハ純正アクセサリは、この車両用に特別に設計されたものです。ヤマハは入手可能な他社製の全てのアクセサリのテストをすることができません。そのため、ヤマハ製でないアクセサリの適切な選択、取り付け、使用に対して、ライダーは個人的に責任を負わなければなりません。アクセサリの選択、取り付けには十分な注意を払ってください。

「積載」のガイドラインに加え、アクセサリを装着するにあたり以下のガイドラインに留意してください。

- モーターサイクルの性能を損なうアクセサリは取り付けないでください。アクセサリを使用する前に、地上高、バンク角を低下させたり、サスペンションの動き、ハンドル切れ角や操縦性に制約を与えていないかどうか、念入りに点検してください。
- ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリを取り付けると、重量配分が悪くなったり、空気力学上の変化により、操縦が不安定になるおそれがあります。ハンドルやフロントフォーク部にアクセサリを装着する場合、できるだけ軽量、最小にするようにしてください。
- 大きなアクセサリは車両の安定性に空気力学上、重大な影響を及ぼします。風の影響で車両が持ち上げられたり、横風により安定性を失うおそれがあります。

- アクセサリはライダーの正常なライディングポジションを妨げることもありえます。不適切なポジションはライダーの自由な動きを妨げたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。そのため、そのようなアクセサリはおすすめしません。

- 電装品を取り付けるときは注意してください。電装品が車両の電装システムの容量を超えた場合、電気的な不良が発生し、エンジンパワーの損失を招くおそれがあります。

ガソリンと排気ガス

- ガソリンには強い引火性があります。
 - 給油するときは、常にエンジンを止めてください。
 - 給油するときは、ガソリンがエンジンやエキゾーストパイプ、マフラーにこぼれないように注意してください。
 - 喫煙中や火気のあるところでは、絶対に給油しないでください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所で車両を運転してください。

- 車両から離れるときは、エンジンを止め、メインスイッチからキーを抜いてください。車両を駐車するときは、以下の点に注意してください。
 - エンジンやエキゾーストパイプ、マフラーは高温になっています。歩行者や子供が触れないような場所に駐車してください。
 - 坂道や軟弱な地面には駐車しないでください。転倒するおそれがあります。
 - 火気（例えば石油ストーブ、直火）の近くに駐車しないでください。引火するおそれがあります。
- 車両を運搬するときは垂直にし、フューエルコックを ON または RES（負圧コックの場合）か OFF（マニュアルコックの場合）にしてください。車両が傾くと、キャブレターやフューエルタンクからガソリンが漏れることがあります。
- 万一、ガソリンを飲んでしまったり、気化したガソリンを大量に吸い込んだり、ガソリンが目に入ったときは、ただちに医師の手当てを受けてください。ガソリンが皮膚や衣服にかかったときは、すぐに石鹸と水で洗い、着替えてください。

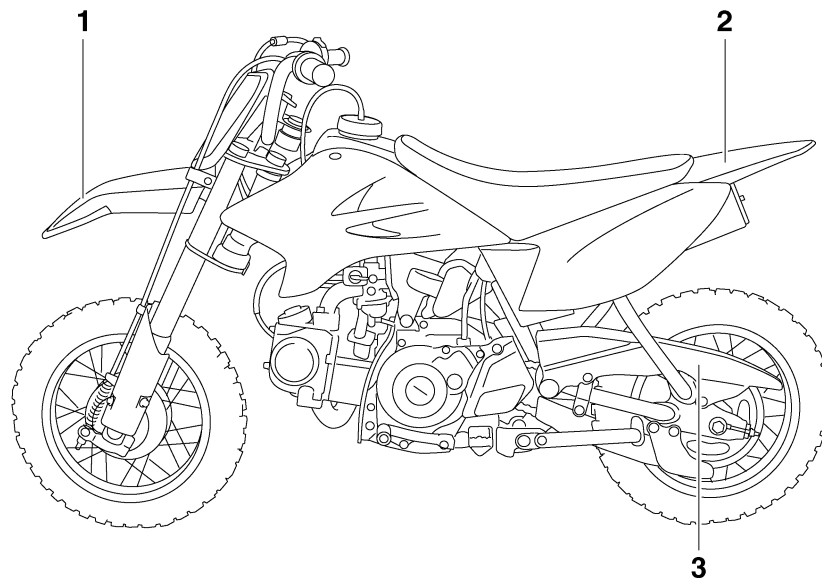
安全運転のために

JAU41370

重要項目ラベルの貼り付け位置

車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。

1



1

⚠ 注 意

バッテリーあがりの原因となりますので、走行後は
かならずメインスイッチをOFFにしてください。

1P6-F151A-30

2

⚠ 警 告

- ご使用前には必ず取扱説明書とラベルをよく読んでください。
- この車は1人乗りです。
運転者以外に人を同乗させると安定を失い危険です。
- この車は一般公道では走れません。
一般公道を走行するために必要な保安部品を装備していません。
- 正しい服装で運転してください。
ヘルメット、ゴーグル等の保護具を着用してください。

5PA-2118K-20

3

タイヤ標準空気圧

タイヤが冷えている時に調整してください。

前輪 : 100kPa, { 1.00kgf /cm²}

後輪 : 100kPa, { 1.00kgf /cm²}

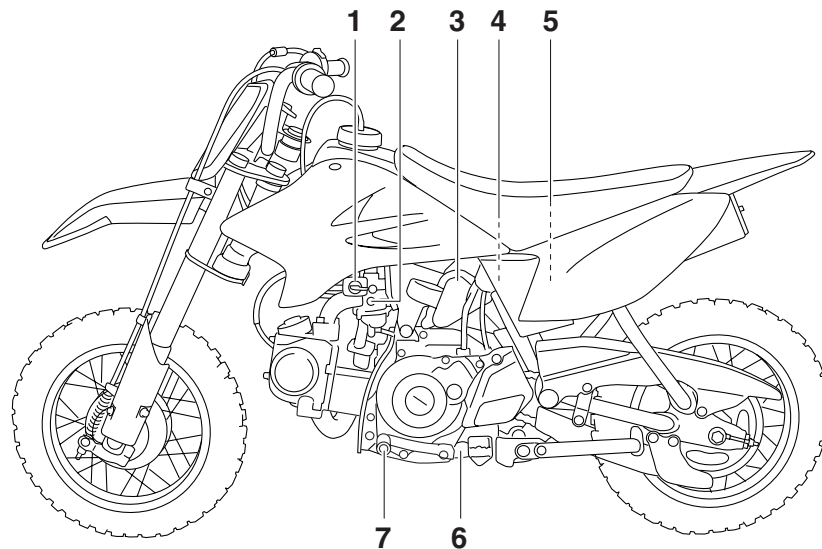
1P6-F218G-20

各部の名称

JAU10410

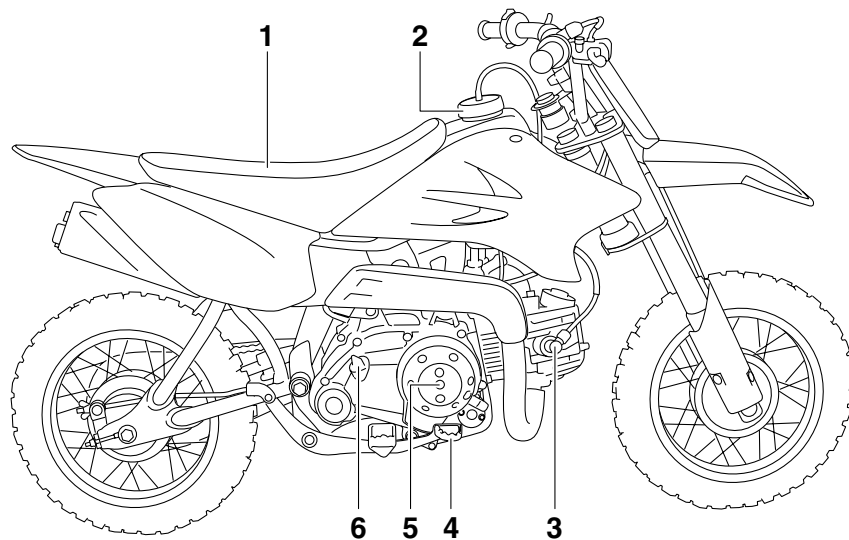
左側面

2



1. フューエルコック (P3-5)
2. スロットルストップスクリュー (P6-10)
3. エアクリーナーエレメント (P 6-7)
4. ヒューズ (P6-22)
5. バッテリー (P6-21)
6. ドレンボルト (P6-6)
7. シフトペダル (P3-3/5-2)

右側面

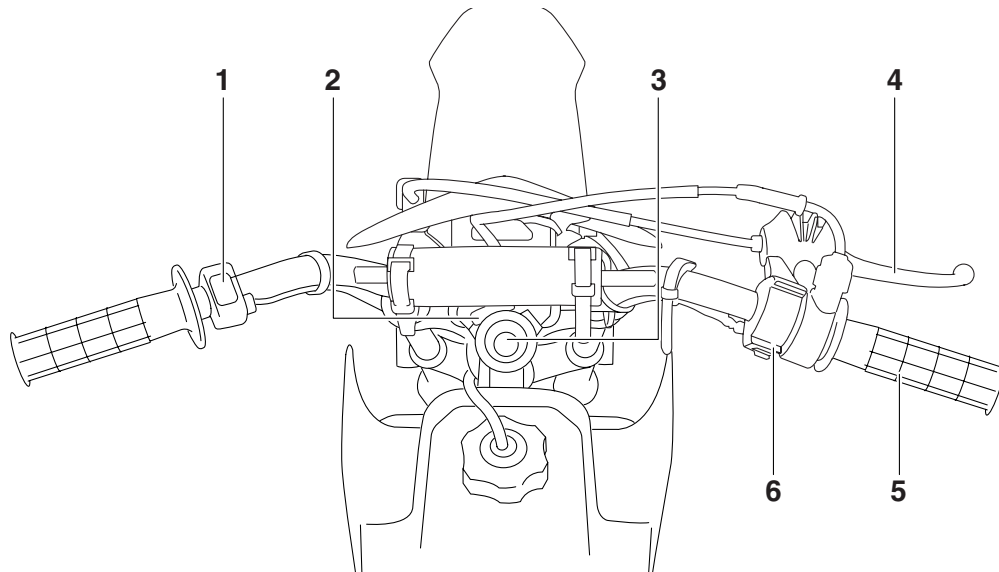


1. シート (P3-6)
2. フューエルタンクキャップ (P3-4)
3. スパークプラグキャップ (P6-5)
4. ブレーキペダル (P 3-3)
5. クラッチアジャスター (P 6-13)
6. オイル注入口 (P6-6)

各部の名称

JAU10430

運転装置と計器類

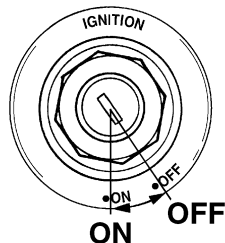


1. ハンドルスイッチ（左）（P3-1）
2. チョークレバー（P3-6）
3. メインスイッチ（P3-1）
4. ブレーキレバー（P3-3）
5. スロットルグリップ（P6-11）
6. ハンドルスイッチ（右）（P3-1）

各部の取り扱いと操作

メインスイッチ

JAU40340



メインスイッチはエンジンの始動と停止、電源の「入 / 切」を行います。メインスイッチには以下のポジションがあります。

ON

JAU10630

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。キーを抜くことはできません。

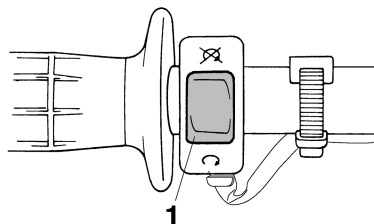
OFF

JAU10660

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

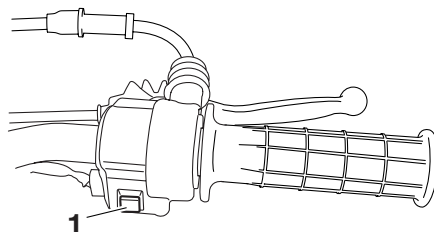
ハンドルスイッチ

左



1. エンジンストップスイッチ“(X)/O”

右



1. スタータースイッチ“(3)”

エンジンストップスイッチ“(X)/O”

JAU12660

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常はOにしておきます。

JAU12347

警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JWA12100

注意

JCA12360

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチをO→X→Oにしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要点

Xにすると、エンジンは始動できません。

スタータースイッチ“(3)”

JAU12710

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11881

注意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

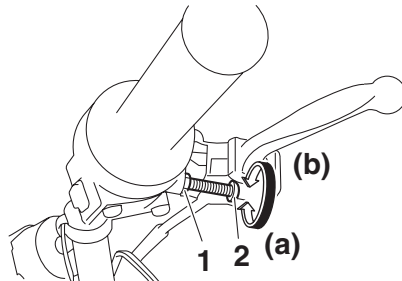
各部の取り扱いと操作

- エンジンを始動させる前に、5-1ページの始動手順を参照してください。

スピードリミッター

この車には調整式のスピードリミッターが装備されています。スピードリミッターはスロットルの最大開度を制限する装置です。

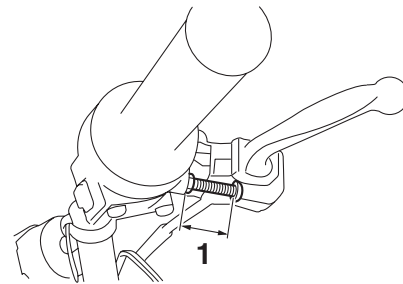
1. ロックナットをゆるめます。
2. エンジンのパワーを増やし、車の最高速度を上げる時はアジャスターを (a) 方向に、エンジンのパワーを低下させ、車の最高速度を下げる時はアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

3. ロックナットを締め付けます。

JAU39861



1. 25 mm を超えないこと

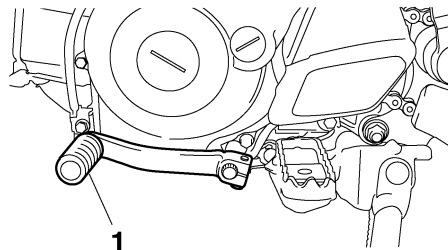
JWA14401

⚠ 警告

スピードリミッターの調整を誤るとスロットルの異常につながり、制御不能になって事故やケガのおそれがあります。アジャスターは 25 mm を超えて回さないでください。スロットルケーブルの遊びの量は 3.0–5.0 mm になるよう、調整してください。(6-11 ページ参照)

シフトペダル

JAU39850

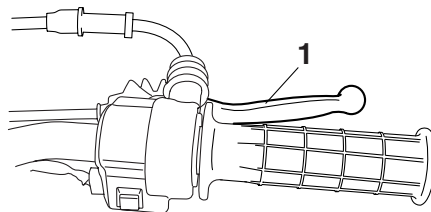


1. シフトペダル

この車には常時かみ合式、ボトムニュートラルの3段変速機が装備されています。シフトペダルはエンジンの左側にあります。

ブレーキレバー

JAU12890

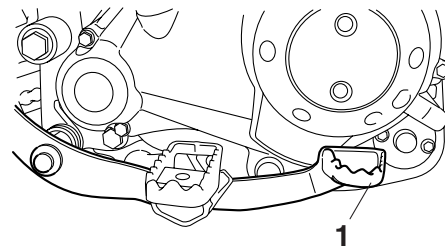


1. ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右グリップ部に取り付けられています。前輪ブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

ブレーキペダル

JAU12941



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。後輪ブレーキをかけるには、ブレーキペダル踏み込みます。

各部の取り扱いと操作

JAU13181

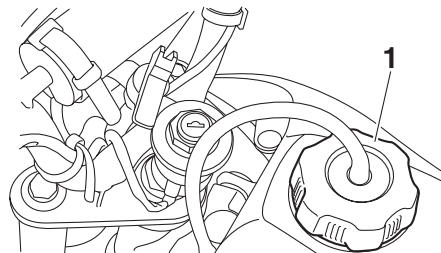
フューエルタンクキャップ

JWA12171

⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあります危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを反時計方向に回して、取り外します。
フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

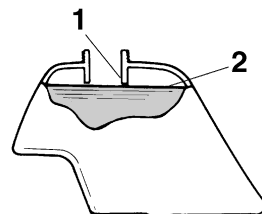
JWA11090

⚠ 警告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

燃料

JAU13211



1. フィラーチューブ

2. 給油限度

フューエルタンクに充分な燃料が入っているか、確認してください。図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10880

⚠ 警告

- 給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。
- 高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。

JCA10070

⚠ 注意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

指定燃料

JAU28281

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 3.1 L
予備容量：
約 0.4 L

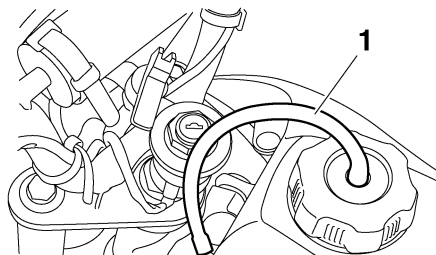
⚠ 注意

JCA12511

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

フューエルタンクブリーザーホース

JAU13412



1. フューエルタンクブリーザーホース

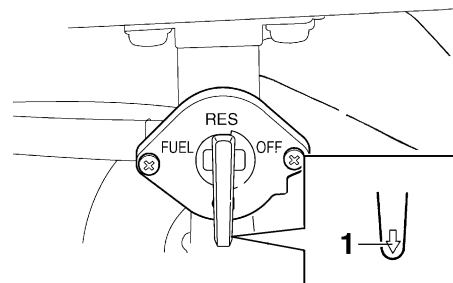
乗車の前に：

- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検し、ひび、損傷がある場合は交換します。
- フューエルタンクブリーザーホースがつまっていないか確認し、必要に応じて清掃してください。

フューエルコック

JAU13561

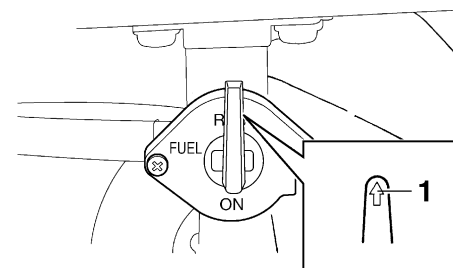
ON



1. "ON"

始動および走行時のレバー位置です。

RES



1. "RES"

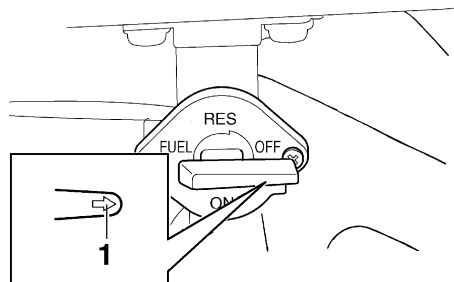
各部の取り扱いと操作

予備燃料（予備容量約 0.4 L）を使用するときのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

OFF

3



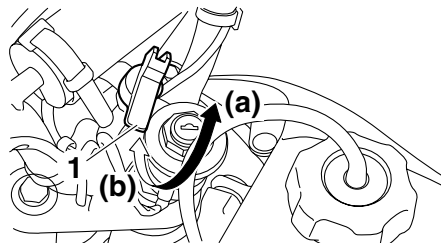
1. "OFF"

駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

チョークレバー “”



1. チョークレバー “”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

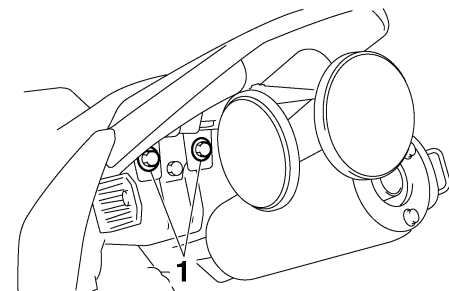
JAU13590

シート

JAU13960

シートの取り外しかた

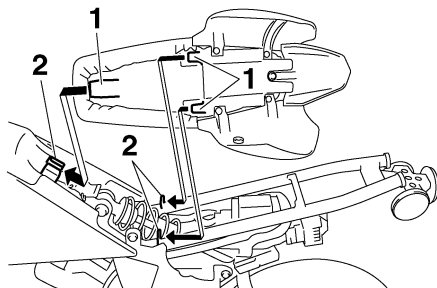
ボルトを外し、シートを取り外します。



1. ボルト

シートの取り付けかた

1. シート前部の突起を図のようにシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. ホルダー

2. シートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

要 点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JAU37490

⚠ 注 意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JCA13120

⚠ 警 告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあります、たいへん危険です。
- 走行中にサイドスタンドを操作すると、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

JWA14250

スターティングサーキットカットオフシステム

JAU41610

スターティングサーキットカットオフシステムはギヤが入っている状態でのエンジン始動を防止します。

スターティングサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA10250

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

3

エンジンを停止した状態で：
1. エンジンストップスイッチを“○”にします。
2. メインスイッチをONにします。
3. ギヤを入れます。
4. フロントまたはリアのブレーキをかけます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

いいえ はい

6. ギヤをニュートラルに入れます。
7. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

システムは正常です。走行可能です。

要 点

この点検は、エンジンを充分暖気してから行ってください。

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
走行しないでください。すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
走行しないでください。すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

JAU42181

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12031

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検

JAU15605

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	• フューエルタンクの残量を点検します。 • 必要に応じて補給します。 • フューエルホースに漏れがないか点検します。	3-4
エンジンオイル	• オイル量を点検します。 • 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。 • オイル漏れがないか点検します。	6-6
前輪ブレーキ	• 作動を点検します。 • 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。 • ブレーキレバーの遊びの量を点検します。 • 必要に応じて調整します。	6-14, 6-15
後輪ブレーキ	• 作動を点検します。 • ブレーキペダルの遊びの量を点検します。 • 必要に応じて調整します。	6-15, 6-15
スロットルグリップ	• 作動がスムーズであるか点検します。 • ケーブルの遊びを点検します。 • 必要に応じて、ヤマハ販売店でケーブルの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	6-11, 6-18
コントロールケーブル	• 作動がスムーズであるか点検します。 • 必要に応じて注油します。	6-18
ドライブチェーン	• チェーンのたわみ量を点検します。 • 必要に応じて調整します。 • チェーンの状態を点検します。 • ME-180 チェーンオイルを給油します。	6-16, 6-17
ホイールとタイヤ	• 損傷がないか点検します。 • タイヤの状態と溝の深さを点検します。 • 空気圧を点検します。 • 必要に応じて調整、交換します。	6-12, 6-13
シフトペダル	• 作動が滑らかであるか点検します。 • 必要に応じて調整します。	6-18
ブレーキペダル	• 作動が滑らかであるか点検します。 • 必要に応じてペダルの取り付け部分に注油します。	6-18

項目	点検、整備内容	参照ページ
ブレーキレバー	- 作動がスムーズであるか点検します。 - 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	6-19
サイドスタンド	- 作動がスムーズであるか点検します。 - 必要に応じて取り付け部に注油します。	6-19
車体の締付具合	- ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 - 必要に応じて締め付けます。	—
エンジンストップスイッチ	作動を点検します。	3-1

JAU41680

JWA14620

⚠ 警告

- この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。
- 風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所で車両を運転してください。
- 発進の前に、サイドスタンドを上げてください。サイドスタンドを正しく上げないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。

JAU40092

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが○にセットされていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルにします。

JWA14410

⚠ 警告

- エンジンを始動する前に、ギヤをニュートラルにしてください。
- サイドスタンドを下げたまま走行しないでください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。(3-6 ページ参照)
5. スタータースイッチを押してエンジンを始動します。
6. エンジンが始動したら、チョークを途中で戻します。

JCA15990

⚠ 注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ふかしは避けてください。
 - 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
7. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

JCA15670

⚠ 注意

- チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。

要 点

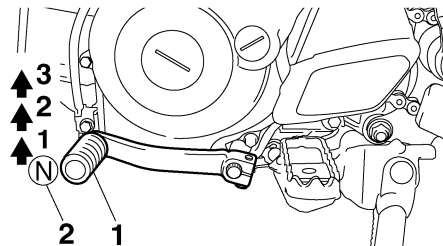
チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルに正常に反応すれば、エンジンは暖まっています。

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

JAU16640

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車は自動遠心式クラッチの 3 段変速です。ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。ギヤのポジションは図に示すようになっています。

要 点

ニュートラルにシフトするには、シフトペダルを一番下に行くまで繰り返し踏み込みます。

JCA15441

▲ 注 意

- ギヤがニュートラルの位置の状態でも、エンジンをかけないまま長時間惰性で走らせないでください。また、長い距離を牽引しないでください。トランスミッションは

JAU39901

エンジンが回転している時のみ、適切に潤滑されます。潤滑不足によりトランスミッションに損傷を与えることがあります。

- ギヤを変えるときは、エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンの損傷を防ぐため、スロットルグリップを戻してください。エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンは、スロットルグリップを開けたままでのシフト操作に耐えられるようには設計されていません。

JAU39910

発進と加速のしかた

1. スロットルを閉じます。
2. ギヤを 1 速に入れ、シフトペダルを放します。

JCA15460

▲ 注 意

ギヤチェンジはスロットルグリップを戻してから行ってください。無理なギヤチェンジは故障の原因になります。

3. 少しづつスロットルを開けます。
4. 車が発進に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。
5. ギヤを 2 速に入れ、シフトペダルを放します。
6. 少しづつスロットルを開けます。
7. 次のギヤに変速する時は同じ手順で行ってください。

減速のしかた

1. スロットルを完全に閉じます。前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

ならし運転

最初の5時間のならし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。同じようにこの期間、ライダーがバイクになれることも重要です。以下の説明をよくお読みください。

エンジンは新品ですので、最初の5時間は過度な負荷をかけないでください。エンジン内の各部品が互いに摩擦、摺動することで正しい作動クリアランスとなります。この期間中、エンジンのオーバーヒートになりかねない長時間の全開運転は避けてください。しかし、短時間（最大2～3秒）であれば、スロットルを全開にしてもエンジンに悪影響はありません。スロットルを全開にする操作は、休み休み行ってください。また、熱を持ったエンジンを冷やすために、低速で走行しながら行ってください。

ならし運転後、部品がゆるんでいないか、オイル洩れや問題がないかを念入りに点検してください。特にケーブルやドライブチェーンのゆるみ、スポークのゆるみの点検、調整をしてください。さらに、各部のゆるみを点検し、必要であれば締め付けます。

JCA10270

注意

ならし運転の間にエンジントラブルが発生したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜き、フューエルコックをOFFにします。

JWA11580

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU17291

JAU40350

安全を保つことは所有者の義務のひとつです。定期的な点検、調整や注油によって、車両の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整や注油の重要なポイントについて以下の各ページで説明します。

JWA10320

**警告**

整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

定期点検整備

車両の正しい定期点検整備は、長くバイクを楽しんでいただく上で重要です。特に重要なことは、排気ガスに関連した部分の保守整備です。これらの部分は、よりクリーンな排気を保つ働きをするだけでなく、エンジンが十分に性能を発揮するためにも重要です。以下の定期点検整備表では、排気ガスに関連した点検整備項目は別にグループ化されています。整備には、各種のデータ、知識、器具が必要です。ヤマハ販売店は、これらの整備を行なう上での訓練を受けており、設備も備わっています。

JWA10340

**警告**

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

点検整備

JAU39943

定期点検項目（排ガス関連）

要 点

- 7000 km または 18 か月目以降は、3000 km または 6 か月目の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	* 燃料系統	- 燃料ホースに亀裂や損傷がないか点検します。 - 必要に応じて交換します。		√	√
2	スパークプラグ	- 状態を点検します。 - ギャップを調整し、清掃します。		√	√
3	* バルブクリアランス	エンジンが冷えているときに、バルブクリアランスの点検と調整を行います。			√
4	* エアクリーナーエレメント	- きれいな灯油で洗浄します。 - 必要に応じて交換します。		√	√
5	* クランクケースブリーザーシステム	- ベンチレーションホースに亀裂や損傷がないか点検し、堆積物を排出します。 - 必要に応じて交換します。	√	√	√
6	* キャブレター	- アイドリング回転数を点検します。 - 必要に応じて調整します。	√	√	√
7	排気系統	- 漏れがないか点検します。 - 必要に応じて締め付けます。 - 必要に応じてガスケットを交換します。		√	√
8	エンジンオイル	交換します。（オイルを抜く前にエンジンを 2 ～ 3 分間、アイドリング運転してください。）	√	√	√

定期点検整備項目（一般）と給油

No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	* クラッチ	• 作動を点検します。 • 必要に応じ調整します。	√	√	√
2	* フロントブレーキ	• 作動を点検します。 • ブレーキレバーの遊びの量を調整し、必要ならブレーキシューを交換してください。	√	√	√
3	* リヤブレーキ	• 作動を点検します。 • ブレーキペダルの遊びの量を調整し、必要ならブレーキシューを交換してください。	√	√	√
4	* ホイール	• 振れを確認し損傷がないか点検します。 • 必要に応じてスポークを締め付けます。	√	√	√
5	* タイヤ	• 溝の深さを確認し、損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。 • 空気圧を点検します。 • 必要に応じて修正します。		√	√
6	* ホイールベアリング	• 作動が滑らかであるか点検します。 • 必要に応じて交換します。		√	√
7	* スイングアーム取り付け部のベアリング	• ベアリングアッセンブリーにゆるみがないか点検します。 • ヤマハグリース B を塗布します。		√	√
8	ドライブチェーン	• チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 • 調整して ME-180 チェーンオイルを給油します。	乗車毎		
9	* ステアリングベアリング	• ベアリングに緩みがないか点検します。 • ヤマハグリース B を塗布します。	√		√
10	* 車体の締め付け具合	• 車体各部の締め付け具合を確認します。 • 必要に応じて増し締めします。	√	√	√
11	ブレーキレバーピボットシャフト	• ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√

点検整備

No.	項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
			1000 km (1 か月目または 30 時間)	3000 km (6 か月目または 90 時間)	5000 km (12 か月目または 150 時間)
12	ブレーキペダルピボットシャフト	• ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
13	サイドスタンドピボット	• 作動を点検します。 • ヤマハグリース B を薄く塗布します。	√		√
14 *	スパークアレスター	• 清掃します。			√
15 *	フロントフォーク	• 作動とグリース漏れがないかを確認します。 • 必要に応じ交換します。		√	√
16 *	リヤクッション	• 作動を確認しリヤクッションにオイル漏れがないか点検します。 • 必要に応じて交換します。			√
17 *	コントロールケーブル	• ME-180 ワイヤグリースを注油します。	√	√	√
18 *	スロットルグリップハウジングとケーブル	• 作動と遊びを点検します。 • 必要に応じてスロットルケーブルの遊びを調整します。 • スロットルグリップハウジングとケーブルに注油します。	√	√	√

6

JAU40000

要 点

著しく湿気やほこりの多い地域で走行している場合は通常より多めにエアクリーナーエレメントを点検整備する必要があります。

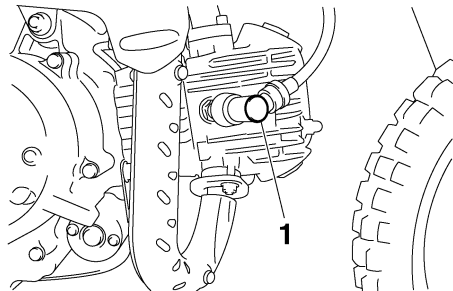
JAU19612

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつですが、簡単に点検することができます。熱や堆積物のため、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進みますから、スパークプラグは必ず「定期点検項目（排ガス関連）」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態が分かることもあります。

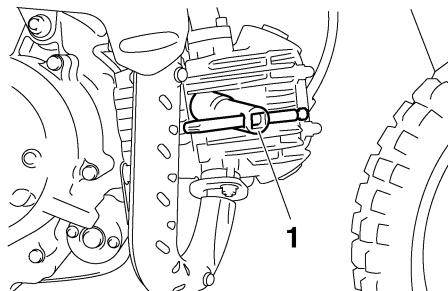
スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはお買い上げのヤマハ販売店で求められます。



1. プラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイスが淡いキツネ色になっているかを点検します。（淡いキツネ色に焼けているのが理想です。）

要 点

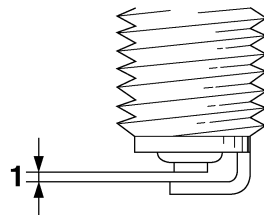
スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボン、その他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/CR7HSA

スパークプラグの取り付けかた

1. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.6-0.7 mm

2. スパークプラグガスキットの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
3. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
12.5 Nm (1.25 m·kgf)

要 点

トルクレンチが利用できない場合は、スパークプラグを指で締め付け、さらにレンチで1/4から1/2回転させてください。ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けてください。

4. スパークプラグキャップを取り付けます。

エンジンオイル

エンジンオイルは乗車の前に毎回、点検してください。また、エンジンオイルは「定期点検項目（排ガス関連）」に指定されている時期に交換する必要があります。

エンジンオイル量の点検

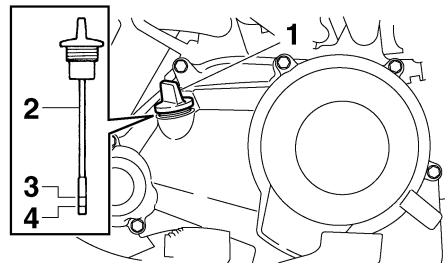
1. 車を平坦なところで垂直に立てます。

要 点

オイル量を点検するときは、車体が垂直に立てられていることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。

2. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
3. 数分間待って、オイルが安定してからオイル注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージをきれいに拭いてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

JAU39841



1. オイルタンクキャップ
2. オイルレベルゲージ
3. フルレベル
4. ロアレベル

要 点

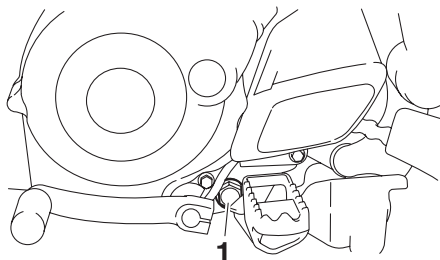
オイル量はフルレベルとロアレベルの間にあるようにしてください。

4. もしもエンジンオイルの量がロアレベルに満たない場合は推奨されたオイルを規定のレベルまで補充します。
5. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、キャップを締めます。

エンジンオイルの交換

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
2. 使用済みのオイルを回収するため、エンジンの下にオイルトレイを置きます。

3. オイル注入口のキャップとエンジンオイルドレンボルトを取り外し、クランクケースからオイルを抜き取ります。



1. ドレンボルト

4. エンジンオイルドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

エンジンオイルドレンボルト：
20 Nm (2.0 m·kgf)

5. 規定の量の推奨エンジンオイルを補充してから、オイル注入口のキャップを取り付け、締め付けます。

推奨エンジンオイル：
8-1 ページ参照
オイル容量：
0.80 L

JCA111620

注意

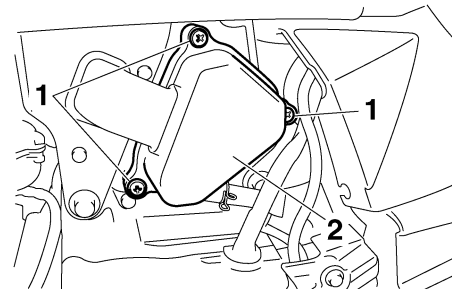
- クラッチの滑りを防ぐため（エンジンオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。
 - クランクケースに異物が入らないように注意してください。
6. エンジンを始動し、数分間アイドリングさせながら、オイル漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。
 7. エンジンを停止し、オイル量を点検します。必要に応じて調整してください。

エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントは「定期点検項目（排ガス関連）」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃してください。

エアクリーナーエレメントの清掃

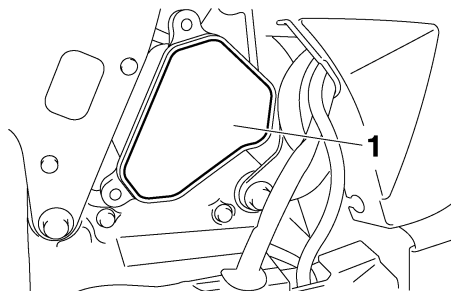
1. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



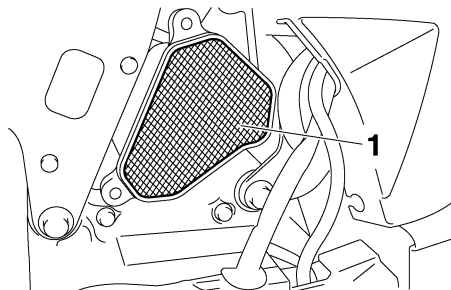
1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

2. エアクリーナーエレメントとメッシュを取り外します。

点検整備



1. エアクリーナーエレメント



1. エアクリーナーメッシュ

- メッシュをきれいな灯油で洗浄して拭き取ります。
- エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。

警告

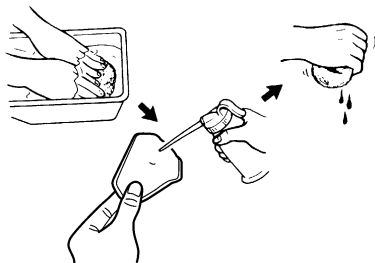
部品洗浄専用の洗油をご使用ください。火災や爆発などの危険を避けるために、ガソリンや燃焼性のある溶剤は使用しないでください。

JWA10430

注意

エアクリーナーエレメントが破損しないよう、力を入れず、曲げたり折ったりしないでください。

JCA10510



- ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

要点

エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、たれる程にはしないでください。

指定オイル：

ME-R フィルターオイル

- メッシュとエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

JCA15571

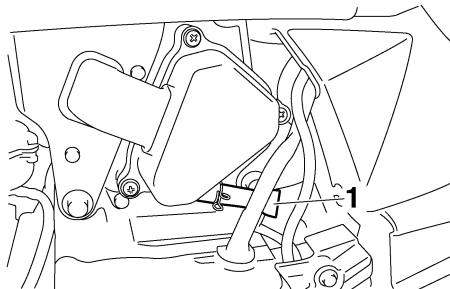
注意

- メッシュとエアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- メッシュとエアクリーナーエレメントを取り付けずにエンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。

- エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

エアクリーナーチェックホースの清掃

- エアクリーナーケースの下方にあるホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. エアクリーナーチェックホース

2. 汚れや水があった場合は、ホースを取り外して清掃し、元に戻します。

スパークアレスターの清掃

スパークアレスターは「定期点検整備項目（一般）と給油」に示された時期に清掃を行ってください。

JAU40421

警告

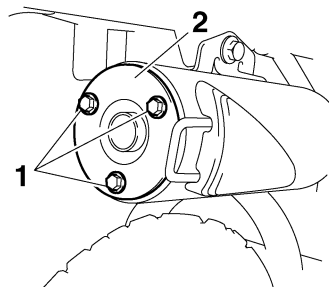
- 排気系統の部品に触れる前に、排気システムを冷やしてください。
- 排気系統を清掃する時は、エンジンを始動しないでください。

JWA10980

要 点

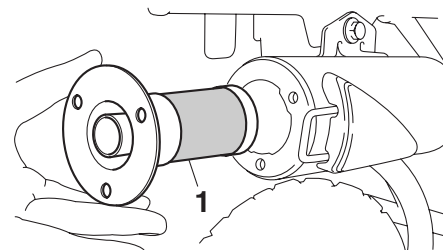
風通しが良く、可燃物がない場所でスパークアレスターの清掃を行ってください。

1. ボルトを取り外してテールパイプをマフラーから引き出します。



1. ボルト
2. テールパイプ

2. テールパイプを軽くたたいてからワイヤーブラシを使ってテールパイプのスパークアレスター部分と内部に堆積したカーボンを取り除きます。



1. スパークアレスター

3. テールパイプをマフラーに差し込み、規定のトルクでボルトを締め付けます。

締め付けトルク：

テールパイプボルト：
10 Nm (1.0 m·kgf)

要 点

テールパイプを差し込むとき、ボルトの穴が合わさるようにしてください。

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてユーザーでも調整できます。

JCA10550

⚠ 注意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

エンジンアイドリング回転数の調整

エンジンアイドリング回転数は「定期点検項目（排ガス関連）」に従って点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

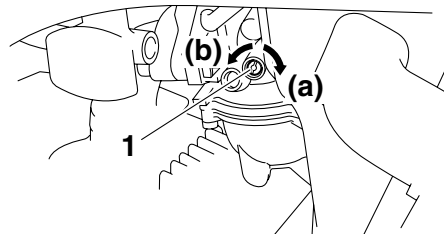
この調整を行うには、測定用のタコメーターが必要です。

1. 測定用のタコメーターをスパークプラグのリード線に取り付けます。
2. エンジンを2～3分間、アイドリング運転します。その後 4000 ～ 5000 回転まで回転を上げ、スロットルレスポンスを確認します。

要 点

スロットルレスポンスが良くなれば、エンジンは暖まっています。

3. エンジンのアイドリング回転数を点検します。調整が必要な場合は、スロットルストップスクリューを調整しながら規定のエンジン回転数に設定します。エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。



1. スロットルストップスクリュー

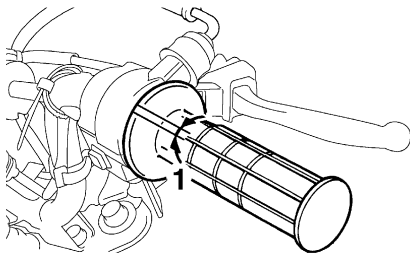
アイドリング回転数：
1600–1800 r/min

要 点

以上の手順で規定のアイドリング回転数に設定できない場合、ヤマハ販売店で調整を行ってください。

スロットルケーブルの遊びの調整

JAU21370



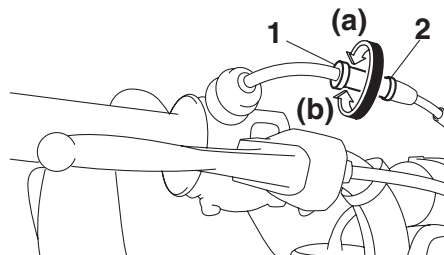
1. 遊び

スロットルケーブルの遊びは、スロットルグリップ部分で 3.0–5.0 mm です。スロットルケーブルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要 点

スロットルケーブルの遊びを調整する前に、エンジンのアイドリング回転数の調整を正確に行う必要があります。

1. ロックナットをゆるめます。
2. スロットルケーブルの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、スロットルケーブルの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. ロックナット
2. アジャスター

3. ロックナットを締め付けます。

バルブクリアランス

バルブクリアランスは車の使用とともに変化し、不適切な空燃比やエンジンの騒音につながります。この発生を防ぐため、「定期点検項目（排ガス関連）」に指示された時期にヤマハ販売店でバルブクリアランスの調整を行ってください。

点検整備

JAU39820

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

JWA14380

⚠ 警告

- 空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で(タイヤの温度と外気温が同じ時に)行ってください。
- タイヤ空気圧は運転者の体重、走行速度と走行状況を考慮して調整してください。

6

タイヤ空気圧：

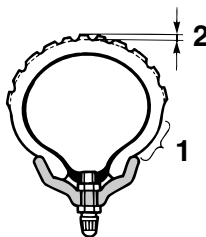
前輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

後輪：

100 kPa (1.00 kgf/cm²)

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：

4.0 mm

タイヤの情報

この車はスポークホイールとチューブタイヤを装備しています。

JWA10460

⚠ 警告

- 前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。
- ヤマハ発動機株式会社が、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。

前輪：

サイズ：

2.50-10 4PR

メーカー／型式：

CHENG SHIN/KNOBBY

後輪：

サイズ：

2.50-10 4PR

メーカー／型式：

CHENG SHIN/KNOBBY

JWA14560

⚠ 警告

- 過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、正常なハンドリングができなくなるおそれがあります。
- タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU21940

スポークホイール

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

- ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
- タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。
- タイヤの交換をした後は、まず「ならし運転」をしてタイヤ表面に最適な特性が発揮出来るまでスピードを出し過ぎないでください。

アクセサリーと交換部品

JAU40431

JWA14481

警告

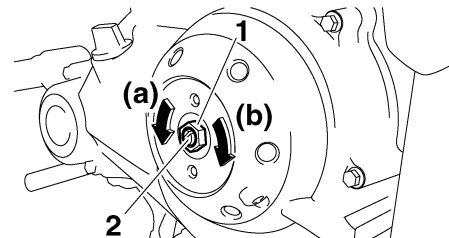
アクセサリーや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリーは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリーのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリーや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリーや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

JAU44661

クラッチの遊びの調整

クラッチの遊びは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. ロックナットをゆるめます。
2. クラッチ調整用のアジャスターを、抵抗が感じられるまで (a) 方向にゆっくり回した後、(b) 方向に 1/8 回転戻します。



1. ロックナット
2. クラッチアジャスター

要 点

クラッチの遊びを減らすときはアジャスターを (a) 方向に、クラッチの遊びを増やすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

3. ロックナットを規定トルクで締め付けます。

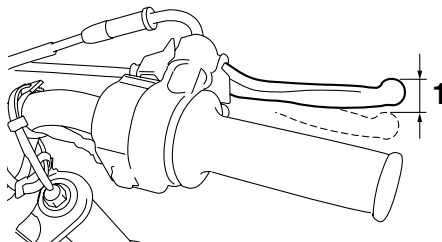
締め付けトルク：
ロックナット：
6 Nm (0.6 m·kgf)

要 点

ドライバーなどでアジャスターを固定したまま、ロックナットを締め付けます。

ブレーキレバーの遊びの調整

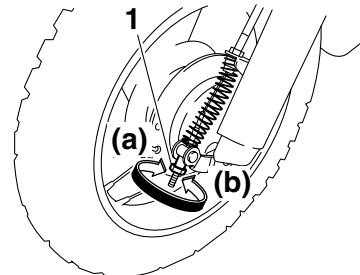
JAU22130



1. 遊び

ブレーキレバーの遊びは図に示すように 10.0–20.0 mm です。ブレーキレバーの遊びは定期的に点検し、必要なら以下の手順で調整します。

ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に、ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。



1. アジャスター

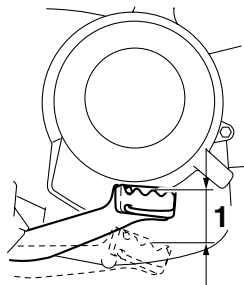
JWA10650

⚠ 警告

説明のとおり正しく調整できない場合には、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。

ブレーキペダルの遊びの調整

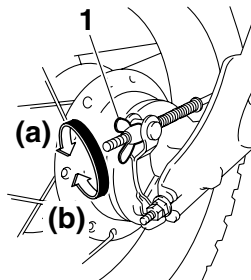
JAU44670



1. 遊び

ブレーキペダルの遊びは図に示す位置で 10.0–20.0 mm です。ブレーキペダルの遊びは定期的に調べて、必要なら以下の手順で調整します。

ブレーキペダルの遊びを増やす時はブレーキ調整用のアジャスターを (a) 方向に、ブレーキペダルの遊びを減らす時はブレーキ調整用のアジャスターを (b) 方向に回します。



1. アジャスター

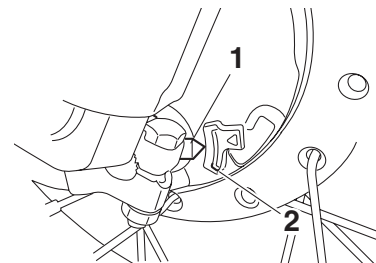
JWA14820

⚠ 警告

- ドライブチェーンの張り調整後やリヤホイールの脱着後は、必ずブレーキペダルの遊びを点検してください。
- 説明のとおり正しく調整できない場合には、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。

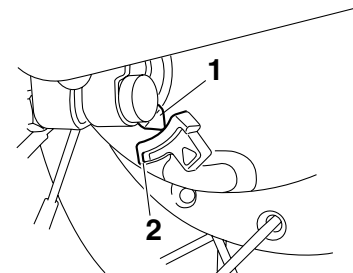
前輪および後輪ブレーキシューの点検

前輪



1. ウェアインジケーター
2. ブレーキシュー使用限度

後輪



1. ウェアインジケーター
2. ブレーキシュー使用限度

点検整備

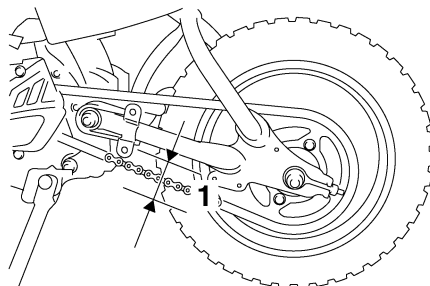
前輪および後輪ブレーキシューは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。各ブレーキはウェアインジケーターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキシューの摩耗を確認することができます。ブレーキシューの摩耗を点検するには、ブレーキをいっばいに作動させてインジケーターの示す位置を確認します。インジケーターが摩耗限度に達したらブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキシューをセットで交換してください。

ドライブチェーン

JAU22760

ドライブチェーンの点検

JAU22773



1. ドライブチェーンのたわみ量

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、シートに荷重を掛けずに、リヤクションが伸びきった状態で行います。

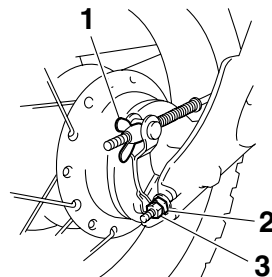
また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
35.0-45.0 mm

チェーンの張り調整

JAU40110

1. アクスルナットと、スイングアーム両側のロックナットをゆるめます。

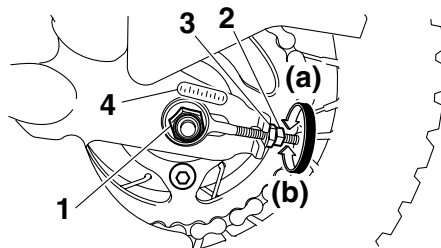


1. アジャスター
2. ドライブチェーン調整ナット
3. ロックナット

2. チェーンを張るにはドライブチェーン調整ナットを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはドライブチェーン調整ナットを (b) 方向に回して、リヤホイールを前側へ押します。

要 点

ドライブチェーン調整ナットは左右均等に調整します。(刻み目盛りを左右同位置にします。)



1. アクスルナット
2. ロックナット
3. ドライブチェーン調整ナット
4. 刻目盛り

JCA10570

⚠ 注意

ドライブチェーンの遊びが正しく調整されていないとエンジンなどの重要な部品に過負荷が発生し、チェーンの滑りや破損が生じるおそれがあります。これらを予防するため、ドライブチェーンのたわみ量は規定の量に保つようにしてください。

3. 調整後、スイングアーム両側のロックナットおよびアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

- ロックナット：
7.0 Nm (0.7 m·kgf)
- アクスルナット：
60 Nm (6.0 m·kgf)

4. ブレーキペダルの遊びを調整します。
(6-15 ページ参照)

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、MEスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-180 チェーンオイルを給油します。

点検整備

ケーブルの点検と注油

JAU23091

すべてのコントロールケーブルの作動性の状態は、乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していて、スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：

ME-180 ワイヤークリース

JWA10710

⚠ 警 告

ケーブルの OUTERハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

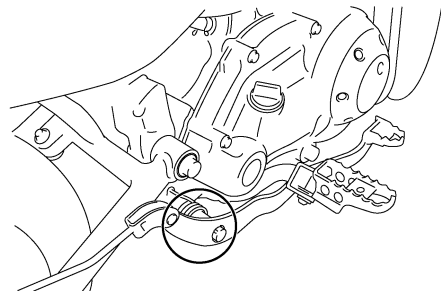
スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

JAU23111

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に注油してください。

ブレーキペダルおよびシフトペダルの点検と注油

JAU44270



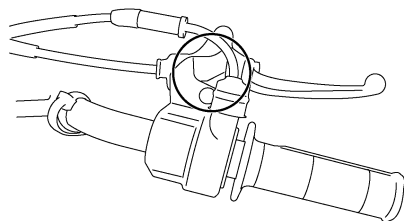
ブレーキペダルおよびシフトペダルは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：

ヤマハグリース B

ブレーキレバーの点検と注油

JAU43620

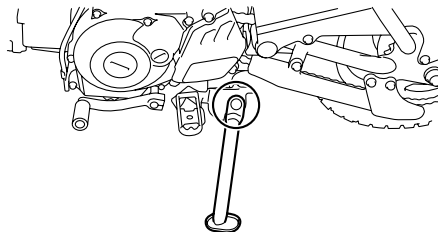


ブレーキレバーは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

サイドスタンドの点検と注油

JAU23200



サイドスタンドは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

JWA10730

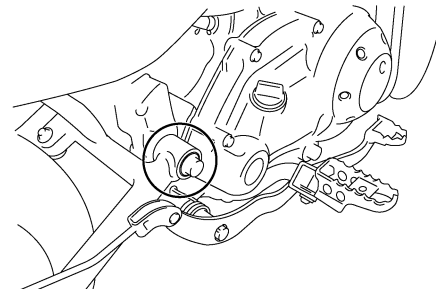
警告

サイドスタンドの動きがスムーズでない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

スイングアームピボットの注油

JAUM1650



スイングアームピボットは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

点検整備

JAU40280

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JWA10750

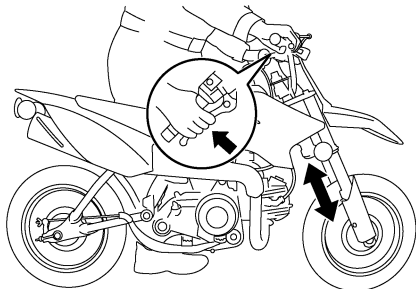
⚠ 警告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷がないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. 前輪ブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークの圧縮、伸びがスムーズに行えるか確認します。



JCA10590

⚠ 注意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりとすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

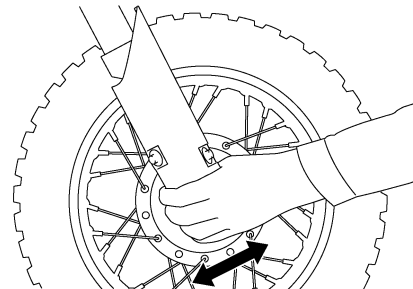
1. エンジンの下部にスタンドを置いて、前輪を浮かせます。

JWA10750

⚠ 警告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



ホイールベアリングの点検

JAU23290

前輪および後輪のホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にしたがって注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

バッテリー

JAU40440

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。

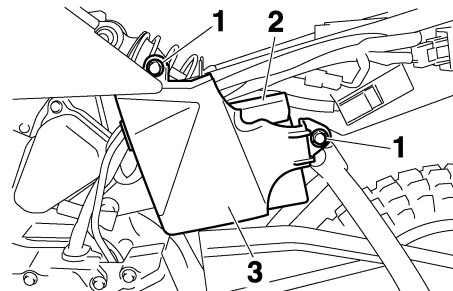
JWA10760

警告

- 電解液は硫酸を含むため有毒で危険です。硫酸は大やけどを引き起こしますので、バッテリーの近くで作業するときには皮膚や目、衣服に触れないようにするとともに、両眼を保護してください。触れてしまった場合は、次の応急処置を施してください。
 - 皮膚についた場合：大量の水で洗い流します。
 - 誤飲した場合：大量の水または牛乳を飲み、直ちに医師を呼びます。
 - 目に入った場合：15 分間以上水で洗い流し、速やかに医師の治療を受けます。
- バッテリーは引火性ガスが発生します。したがって、バッテリーには火花や炎、タバコなどを近づけないでください。屋内で充電するときは十分な換気をしてください。
- バッテリーに子供が近づかないようにしてください。

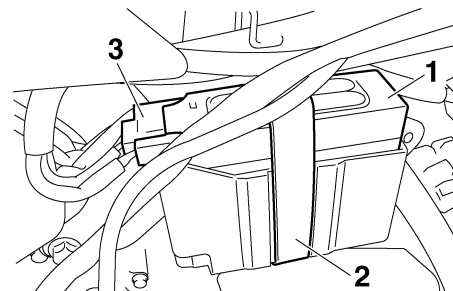
バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。（3-6 ページ参照）
2. ボルトを取り外し、バッテリーカバーを取り外します。



1. ボルト
2. バッテリー
3. バッテリーカバー

3. バッテリーバンドを外し、バッテリーボックスからバッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. バッテリーバンド
3. バッテリーカブラー

4. バッテリーカブラーを抜きます。

点検整備

バッテリーの取り付け

1. バッテリーカブラーをつなぎます。
2. バッテリーを元の位置に戻し、バッテリーバンドを取り付けます。
3. バッテリーカバーをボルトで取り付けます。
4. シートを取り付けます。

バッテリーの交換

バッテリーが放電していると思われる場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でバッテリーを充電してください。オプションの電装系統のアクセサリを装備している場合は、バッテリーの放電が早まりますのでご注意ください。

6

バッテリーの保管

1. 車を 1ヶ月以上使わない場合はバッテリーを取り外し、完全に充電して涼しい乾燥した場所に保管してください。
2. 2ヶ月以上にわたってバッテリーを保管する場合は、少なくとも月に1度は点検し、必要に応じて充電してください。
3. バッテリーは取り付けの前に完全に充電してください。

JCA10630

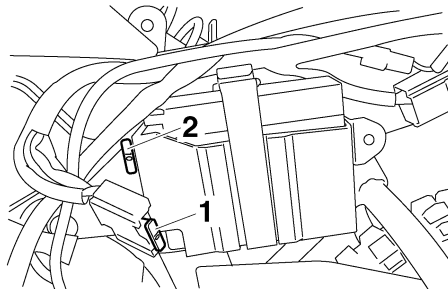
⚠ 注意

- バッテリーは常に充電しておきます。放電した状態で保管しておくと、機能が回復できず、バッテリーが使用できなくなります。

- 密閉式バッテリーを充電するには、特殊な（定電圧）充電器が必要です。通常の充電器を使うとバッテリーを傷めます。密閉式バッテリー用の充電器が利用できない場合は、ヤマハ販売店に充電を依頼してください。

ヒューズの交換

JAU42020



1. ヒューズ
2. スペアヒューズ

ヒューズはバッテリーカブラーにセットされています。

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. バッテリーカブラーを抜き取ります。
3. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
10.0 A

JCA10640

⚠ 注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

4. バッテリーカプラーを接続します。
5. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
6. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要がある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

JAU24350

フロントホイール

JAU24360

フロントホイールの取り外しかた

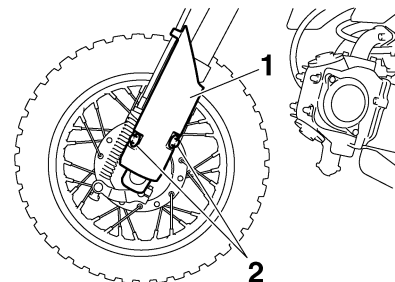
JAU39791

JWA10820

警告

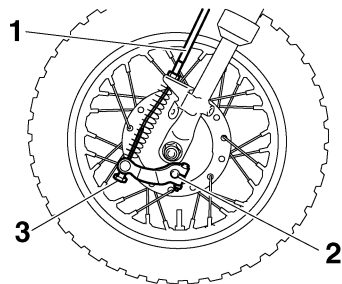
- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. ボルトを外し、両側のフロントフォークからガードを取り外します。



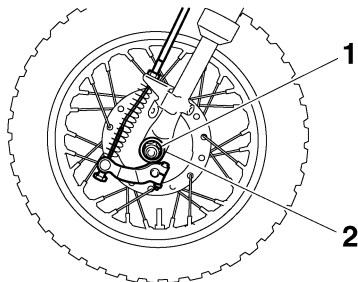
1. フロントフォークガード
2. ボルト

2. ブレーキ調整用のアジャスターを取り外し、ブレーキカムシャフトレバーからブレーキケーブルを取り外します。



1. ブレーキケーブル
2. ブレーキカムシャフトレバー
3. アジャスター

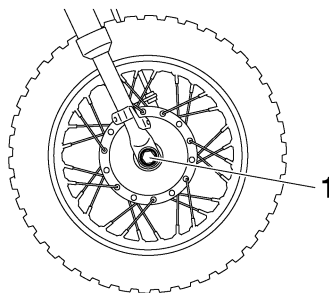
3. アクスルナットをゆるめます。



1. アクスルナット
2. ワッシャー

4. フロントホイールを地面から持ち上げます。(6-23 ページ参照)
5. アクスルナットとワッシャーを取り外します。

6. ホイールアクスルを引き抜いて、フロントホイールを取り外します。



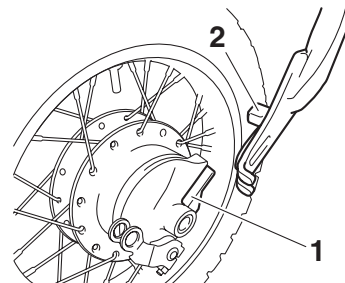
1. ホイールアクスル

フロントホイールの取り付けかた

1. フロントフォークの間にホイールを入れて持ち上げます。
2. ホイールアクスルを右側から差し込みます。

要 点

ブレーキシュープレートの溝にフロントフォークのリテーナーが合うように組み付けます。



1. 溝
2. リテーナー

3. フロントホイールを下げて地面に接地させます。
4. ワッシャーとアクスルナットを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

アクスルナット：
35 Nm (3.5 m·kgf)

5. ブレーキケーブルを取り付け、ブレーキ調整用のアジャスターを取り付けます。
6. ブレーキレバーの遊びの調整を行います。(6-14 ページ参照)
7. ハンドルバーを何度か強く上下に押して、フロントフォークが正常に作動するか確認します。
8. 両側のフロントフォークにガードを取り付けます。

リヤホイール

JAU25080

リヤホイールの取り外しかた

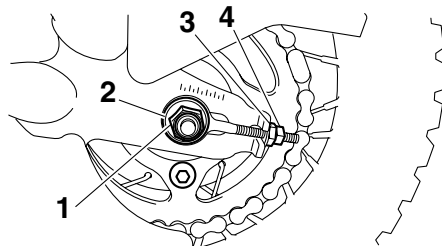
JAU39770

JWA10820

⚠ 警告

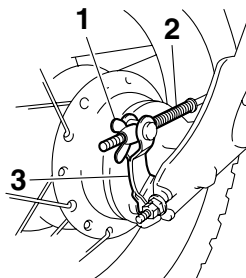
- ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。
- 車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

1. アクスルナットをゆるめます。



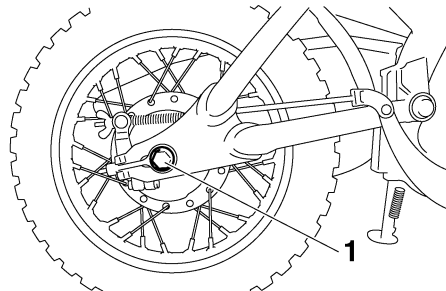
1. アクスルナット
2. ワッシャー
3. ドライブチェーン調整ナット
4. ロックナット

2. ブレーキ調整用のアジャスターを外し、ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーから取り外します。



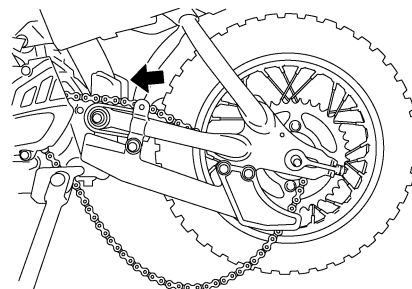
1. アジャスター
2. ブレーキロッド
3. ブレーキカムシャフトレバー

3. スイングアーム両側のロックナットとドライブチェーン調整ナットをゆるめます。
4. リヤホイールを地面から持ち上げます。(6-23 ページ参照)
5. アクスルナットとワッシャーを取り外し、ホイールアクスルを引き抜きます。



1. ホイールアクスル

6. ホイールを前方に押して、ドライブチェーンをリヤスプロケットから取り外します。



要 点

ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

7. ホイールを取り外します。

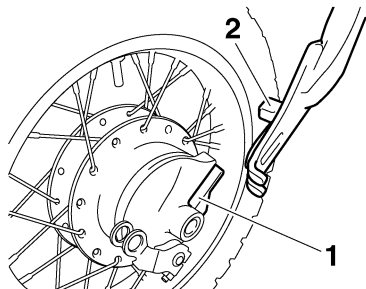
JAU39781

リヤホイールの取り付けかた

1. リヤスプロケットにドライブチェーンをかけます。その後、右側からホイールアクスルを差し込み、ホイールを取り付けます。

要 点

ブレーキシュープレートの溝にスイングアームのリテーナーが合うように組み付けます。



1. 溝
2. リテーナー

6

2. ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーに取り付けます。その後、ブレーキロッドにブレーキ調整用のアジャスターを取り付けます。
3. ドライブチェーンの張り調整を行います。(6-16 ページ参照)
4. ワッシャーとアクスルナットを取り付け、リヤホイールを下げて地面に接地させます。
5. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

アクスルナット：
60 Nm (6.0 m·kgf)

6. ブレーキペダルの遊びの調整を行います。(6-15 ページ参照)

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、点火装置のトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。

次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。

部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高つくことがあります。

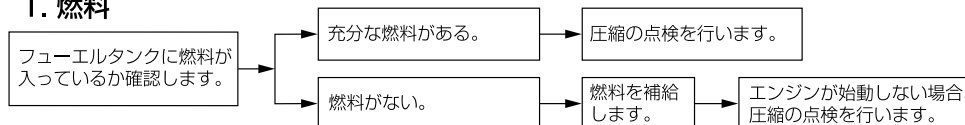
トラブルシューティングチャート



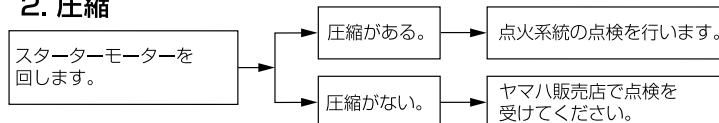
警告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。

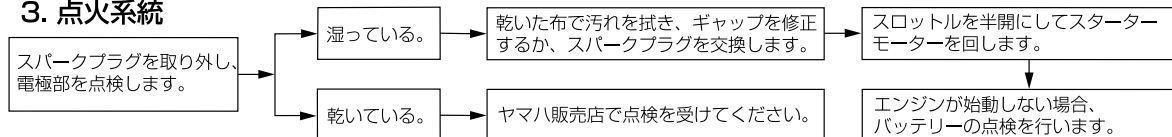
1. 燃料



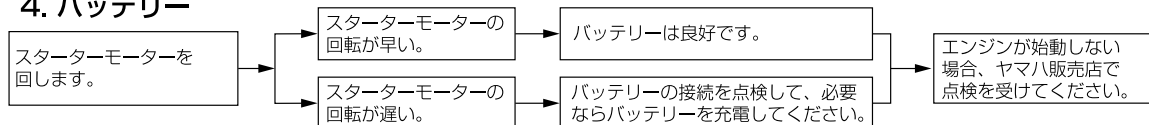
2. 圧縮



3. 点火系統



4. バッテリー



お車の手入れと保管

JAU40462

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カプラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落してください。

清掃

JCA10771

▲注意

- 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると損傷します。柔らかい清潔な布やスポンジを使用し、中性洗剤と水で清掃してください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、ブリーザーホース、ベントホース
- ウィンドシールドを装備している車両について：強力なクリーナーや固いスポンジは、曇りや傷の原因となりますので使用しないでください。プラスチック用コンパウンドの中には、ウィンドシールドを傷付けるものがあります。あらかじめ目立たない場所で試してからご使用ください。ウィンドシールドに傷がついた場合は、洗車したあとで、試用して確認済みのプラスチック用コンパウンドを使用してください。

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかなスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を2～3分かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10790

▲注意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮が吸収性のある布で水気をよく拭き取り、乾かします。
2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐため ME-180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシテムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。（ステンレス

エキゾーストシステムが熱によって引き起こされた変色も、金属磨き剤で取り除くことができます。)

4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。
6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA14500

警告

- ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。
- 必要なら、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。

JCA10800

注意

- スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、拭き残しのないようにしてください。
- ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。
- 研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。

要点

アフターケア用品についてはヤマハ販売店にご相談ください。

保管のしかた

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。

JCA10810

注意

- 水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。
- 錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. “OFF” 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを“OFF”の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。抜いた燃料は燃料タンクに入れます。
4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。

お車の手入れと保管

- a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
 - b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
 - c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。(次の手順中、スパークプラグで放電されます。)
 - d. スターターでエンジンを数回、回します。(シリンダー壁にオイルを付着させます。)
 - e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。
7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。
 8. バッテリーを取り外し、完全に充電した状態で湿気のない涼しい場所で保管し、1ヶ月毎に充電します。バッテリーは著しく温度の高い場所や低い場所 (0°C 以下もしくは 30°C 以上) に保管しないでください。バッテリーの保管手順については 6-21 ページを参照してください。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

⚠ 警 告

JWA10950

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグコードを確実に接地 (アース) させてください。

5. 全てのケーブルとサイドスタンド/センタースタンド、全てのレバーとペダルの作動部に注油します。
6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。

JAU28081

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28110

4 サイクルオイルエフェロプレミアム

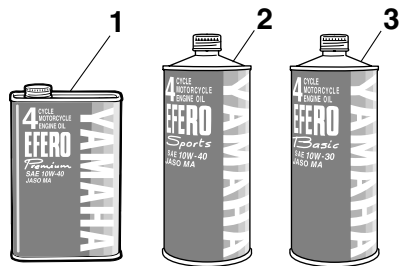
高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

4 サイクルオイルエフェロスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

4 サイクルオイルエフェロベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。



1. エフェロプレミアム
2. エフェロスポーツ
3. エフェロベーシック

ME-R フィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本 MX ラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。

JAU28190



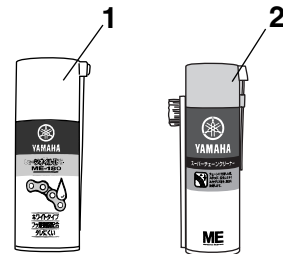
ME-180 チェーンオイル

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

JAU28220

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

JAU41781

ヤマハグリース B

リチウム石けん基のグリースで、耐水、耐熱、耐漏れ性、せん断安定性に優れた万能タイプです。

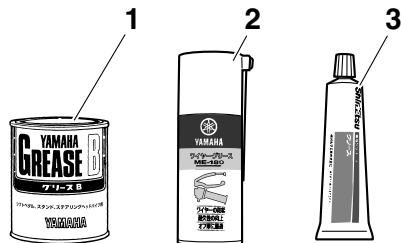
ME-180 ワイヤグリース

各ワイヤーを潤滑、保護します。土、泥、ほこり、水などの悪条件に威力を発揮します。

シリコングリース G30M

熱酸化安定性・耐久性に優れ、広い温度範囲で利用できるグリースです。油圧式ドラムブレーキおよびディスクブレーキに最適です。

お車の手入れと保管



1. ヤマハグリース B
2. ME-180 ワイヤーグリース
3. シリコングリース G30M

JAU42160

ME-180（防錆潤滑剤）

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。



寸法：

全長：
1305 mm
全幅：
595 mm
全高：
775 mm
シート高：
555 mm
軸間距離：
925 mm
最低地上高：
135 mm

重量：

車両重量：
57.0 kg
分布荷重（前）：
27.0 kg
分布荷重（後）：
30.0 kg

性能：

最小回転半径：
1400 mm
最高出力：
2.4 kW@8500 r/min (3.3 PS@8500 r/min)
最大トルク：
3.20 Nm@5500 r/min (0.33 kgf-m@5500 r/min)

エンジン：

原動機種類：
4ストローク空冷 SOHC

気筒数・配列：

単気筒
総排気量：
49.0 cm³
内径 × 行程：
36.0 × 48.6 mm
圧縮比：
9.50 : 1
エアフィルターエレメント：
湿式エレメント
クラッチ形式：
湿式多板、湿式内拡張重錘式併用
ミッション・チェンジ方式：
常時かみ合式 3 速

始動方式：

セル式

車体：

フレーム形式：
パイプバックボーン
キャスター：
25.50°
トレール：
34.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：
45.0°
ハンドル切れ角（右）：
45.0°

燃料：

フューエルタンク容量：
3.1 L

予備容量：

0.4 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ：

ブレーキ形式：
機械式ドラムブレーキ

懸架方式：

種類（前）：
テレスコピック
種類（後）：
スイングアーム（モノクロス）

緩衝方式：

ショックアブソーバータイプ（前）：
コイルスプリング
ショックアブソーバータイプ（後）：
コイルスプリング / オイルダンパー

フロントタイヤ：

種類：
チューブ有り
サイズ：
2.50-10 4PR

メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/KNOBBY

リヤタイヤ：

種類：
チューブ有り
サイズ：
2.50-10 4PR
メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/KNOBBY

製品仕様

積載量：

最大乗員体重：
40.0 kg

トランスミッション：

1 次減速比：
67/18 (3.722)

1 速：
39/12 (3.250)

2 速：
33/19 (1.736)

3 速：
28/23 (1.217)

2 次減速比：
37/13 (2.846)

電気トリカル：

点火方式：
C D I

エンジンオイル：

推奨オイル：
ヤマハ 4 サイクルオイル エフェロ プレ
ミアム、スポーツ、ベーシック

エンジンオイル量：

定期交換時：
0.80 L

ドライブチェーン：

たわみ量：
35.0–45.0 mm

ブレーキレバーとブレーキペダル：

フロントブレーキレバー遊び：
10.0–20.0 mm

ブレーキペダル遊び：
10.0–20.0 mm

ケーブルとレバーの遊び：

スロットルケーブル遊び：
3.0–5.0 mm

フロントドラムブレーキ：

ライニング厚さ：
3.5 mm

使用限度：
1.5 mm

リアドラムブレーキ：

ライニング厚さ：
3.5 mm

使用限度：
1.5 mm

ホイールトラベル：

ホイールトラベル（前）：
96.0 mm

ホイールトラベル（後）：
71.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：

前輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

後輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

バッテリー：

バッテリー型式：
YT4B-BS/GT4B-5

バッテリー容量：
12 V, 2.3 Ah/12 V, 2.5 Ah

点火タイミング：

点火時期（B. T. D. C.）：
15.0° /1700 r/min

スパークプラグ：

メーカー / 型式：
NGK/CR7HSA

プラグギャップ：
0.6–0.7 mm

ヒューズ容量：

メイン：
10.0 A

ID 番号

JAU26351

キーの ID 番号、車台番号、モデルラベルの情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

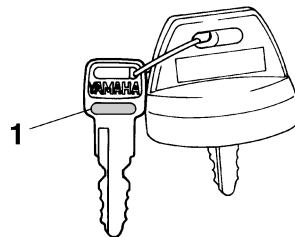
キーの ID 番号情報：

車台番号：

モデルラベルの情報：

キーの ID 番号

JAU26390

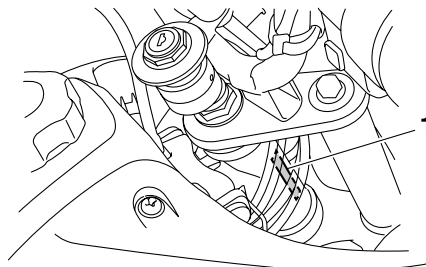


1. キー番号

キーの ID 番号は、キーに打刻されています。所定の空欄にこれを控えておいて、新しいキーを注文するときには、この番号をお知らせください。

車台番号

JAU26400



1. 車台番号

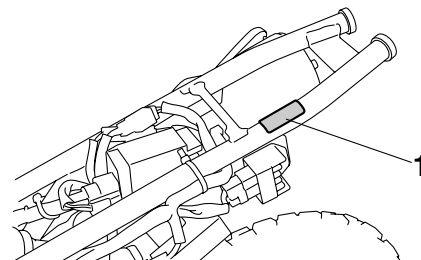
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要 点

車台番号は自分の車であることを証明するために使用します。

JAU26480

モデルラベル



1. モデルラベル

モデルラベルはシート下のフレームに貼り付けてあります。(3-6 ページ参照) このラベルの情報を所定の空欄に控えておいてください。この情報はヤマハ販売店で部品を注文するときに必要なになります。

ユーザー情報

JAU36640

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

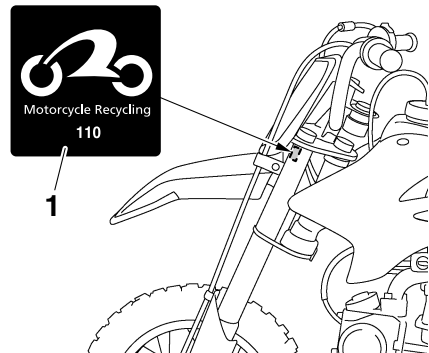
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

JAU28390

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

TT-R50E サービスマニュアル 部品番号：
QQS-CLT-201-1P6

あなたの街のあなたのお店

QQS-CLT-202-1P6



PRINTED IN CHINA
2007.05-0.3×1 CR
(J)